

令和5年度 徳島市中心市街地活性化基本計画の定期フォローアップに関する報告

令和6年5月
徳島市（徳島県）

○計画期間:令和4年4月～令和9年3月(5年)

I. 中心市街地全体に係る評価

1. 令和5年度終了時点(令和6年3月31日時点)の中心市街地の概況

本市は、令和4年3月24日に認定を受けた徳島市中心市街地活性化基本計画に基づき、「ダイバーシティ」と「イノベーション」をキーコンセプトとして、「人と人がつながり、新たな挑戦や投資が生まれる街」を目指して、行政をはじめとした関係者が目指すべきビジョンを共有し、中心市街地の活性化に向けた取組を進めている。

計画期間の2年目となる令和5年度については、徳島駅前再生事業で進めていたJR徳島駅前のアミコビル改修工事や、阿波おどり会館内にある阿波おどりミュージアムのリニューアル改修工事が完了し、アミコビルについては、令和5年5月にショッピングゾーンがグランドオープンしたほか、スポーツコートやオフィスフロアなどが整備され、多くの人々で賑わっている。また、阿波おどりミュージアムについては、デジタル技術を活用した「阿波おどり体験」や、インバウンドに対応したデジタルサイネージなどが整備され、令和6年2月にリニューアルオープンし、幅広い年代の方々や外国人観光客も楽しめる施設となっており、ランドマーク施設来館者数は順調に増加している。

ソフト事業については、新型コロナウイルス感染症が令和5年5月に5類感染症に移行したこともあり、「阿波おどり」の人出は、最終日が台風で中止となったものの、推計で54万人と、前年度の46万人を上回り、ひょうたん島周遊船については、外国人観光客の乗船数が大幅に増加しており、今後、国内外の観光客が増加することが期待される場所である。ソフト事業の参加者等は増加しているが、現状では、これらの集客が歩行者通行量や居住者数の増加には結びついておらず、未だ減少傾向のままとなっている。

国土交通省が、令和6年1月に発表した地価公示を見ると、本市の中心市街地の地価公示が下げ止まり、上昇に転じているとの結果が出ていることから、この機会を逃さず、新たな投資を呼び込み、安定的な経済発展にもつなげるよう、今後も、多様な主体と連携しながら、引き続き中心市街地の活性化に取り組んでいく必要がある。

【中心市街地の状況に関する基礎的なデータ】

(1) 居住人口

(基準日：毎年度1月1日 単位：人)

| (中心市街地区域) | 令和3年度 (計画前年度) | 令和4年度 (1年目) | 令和5年度 (2年目) | 令和6年度 (3年目) | 令和7年度 (4年目) | 令和8年度 (5年目) |
|-----------|------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 人口 | 7,428 | 7,253 | 7,059 | | | |
| 人口増減数 | ▲91 | ▲175 | ▲194 | | | |
| 自然増減数 | — | — | — | | | |
| 社会増減数 | — | — | — | | | |
| 転入者数 | — | — | — | | | |

※ 自然増減数、社会増減数、転入者数はシステム上集計不可

(2) 地価(基準日：毎年度1月1日 単位：円/m²)

| 所在 (用途区分・駅からの距離) | 令和3年度 (計画前年度) | 令和4年度 (1年目) | 令和5年度 (2年目) | 令和6年度 (3年目) | 令和7年度 (4年目) | 令和8年度 (5年目) |
|--------------------------------|------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 中心市街地商業地域平均 | 216,667 | 215,667 | 217,333 | | | |
| 一番町3丁目24番 (商業地域・駅前広場隣接) | 367,000 | 366,000 | 368,000 | | | |
| 八百屋町2丁目7番2外 (商業地域・500m) | 253,000 | 252,000 | 252,000 | | | |
| 両国本町1丁目17番 (商業地域・600m) | 183,000 | 182,000 | 182,000 | | | |
| 西船場町2丁目12番 (商業地域・610m) | 139,000 | 138,000 | 138,000 | | | |
| 東大工町3丁目24番 (商業地域・950m) | 150,000 | 149,000 | 選定替 | | | |
| 東大工町3丁目24番 (商業地域・950m) | — | — | 157,000 | | | |
| 中洲町1丁目44番外 (商業地域・1,000m) | 208,000 | 207,000 | 207,000 | | | |
| 出来島本町2丁目27番2 (準工業地域・1,000m) | 111,000 | 112,000 | 113,000 | | | |
| 新蔵町2丁目40番 (第二種住居地域・1,200m) | 138,000 | 139,000 | 139,000 | | | |

2. 令和5年度 of 取組等に対する中心市街地活性化協議会の意見

II. 目標ごとのフォローアップ結果

1. 目標達成の見通し

| 目標 | 目標指標 | 基準値 | 目標値 | 最新値 | 基準値からの改善状況 | 前回の見通し | 今回の見通し |
|---------|-------------------------|------------------|------------------|------------------|------------|--------|--------|
| 来街者数の増加 | ランドマーク施設 来館者数 | 2,441 千人 (R2) | 3,741 千人 (R8) | 3,232 千人 (R5) | B | — | ① |
| 回遊者数の増加 | まちなか歩行者通行量 (平日・休日平均) | 15,697 人 (R2) | 20,807 人 (R8) | 13,801 人 (R5) | C | — | ① |
| 居住者数の増加 | まちなか居住者数 | 7,546 人 (R2) | 7,567 人 (R8) | 7,131 人 (R5) | C | — | ① |

< 基準値からの改善状況 >

A : 目標達成、B : 基準値より改善、C : 基準値に及ばない

< 目標達成に関する見通しの分類 >

① 目標達成が見込まれる ② 目標達成が見込まれない

※ 関連する事業等の進捗状況が順調でない場合はそれぞれ 1、2 とする。

2. 目標達成見通しの理由

「ランドマーク施設来館者数」については、基準値を上回ったまま、順調に増加を続けており、令和 5 年度は、前年度と比較して、363 千人増加の 3,232 千人（113%）となっている。徳島駅前再生事業によりアミコビルの改修工事が完了し、多くの人々が訪れる施設となったこと、また、阿波おどり会館内にある阿波おどりミュージアムが令和 6 年 2 月にリニューアルオープンしたこともあり、今後も、ランドマーク施設来館者数は増加していくと考えられることから、引き続き事業を進めていくことにより、目標達成は可能であると見込まれる。

「まちなか歩行者通行量（平日・休日平均）」については、令和 4 年度から令和 5 年度にかけて▲615 人と、前年度に引き続き減少傾向となっているものの、調査地点ごとの値では、4 地点が増加（前年度は 2 地点）に転じているなど、新型コロナウイルス感染症が 5 類感染症に移行し、商店街等に人の流れが戻りつつあることが感じられる要素もある。また、観光面を見ると、ひょうたん島周遊船に乗船する外国人観光客が大幅に増加（R4:323 人、R5:1,311 人）しており、今後、インバウンドも含めた観光需用の回復が見込まれていることから、インバウンド対応という視点も重視しながら、ひょうたん島周遊船のような、本市特有の観光資源を生かしながら、各種イベントやランドマーク施設への集客を「まちなかへの回遊」につなげられるよう、事業を進めていくことにより、目標達成は可能であると見込まれる。

「まちなか居住者数」については、令和 4 年度から令和 5 年度にかけて▲166 人と、前年度に引き続き、減少傾向となっているが、減少幅が大きくなっていた前年度（R3:▲55 人、R4:▲194 人）と比較すると減少ペースは緩やかになっている。住宅供給戸数が増加する新町西地区市街地再開発事業や、居住者数の増加につながる移住促進事業の進捗などが順調であることから、新たな民間投資も呼び込めるよう、引き続き事業を進めていくことにより、目標達成は可能であると見込まれる。

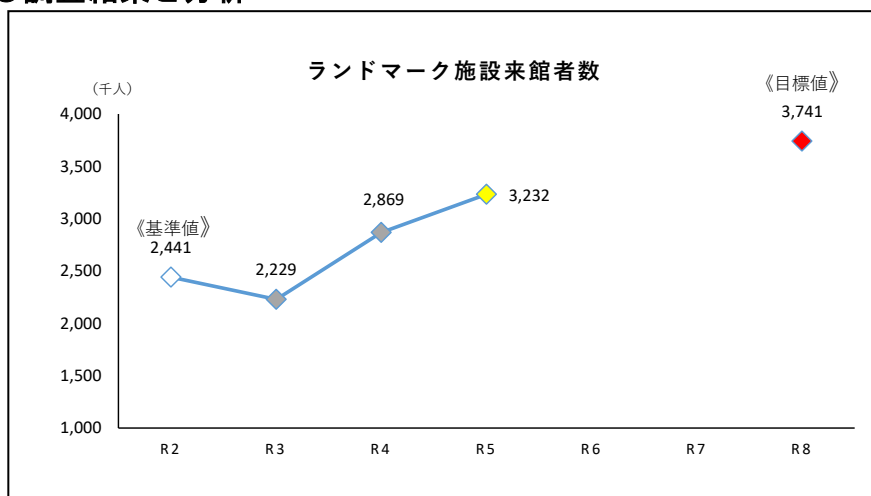
3. 前回のフォローアップと見通しが変わった場合の理由

前回から変更はない

4. 目標指標ごとのフォローアップ結果

(1) 「ランドマーク施設来館者数」 ※目標設定の考え方認定基本計画 P. 70～P. 72 参照

●調査結果と分析



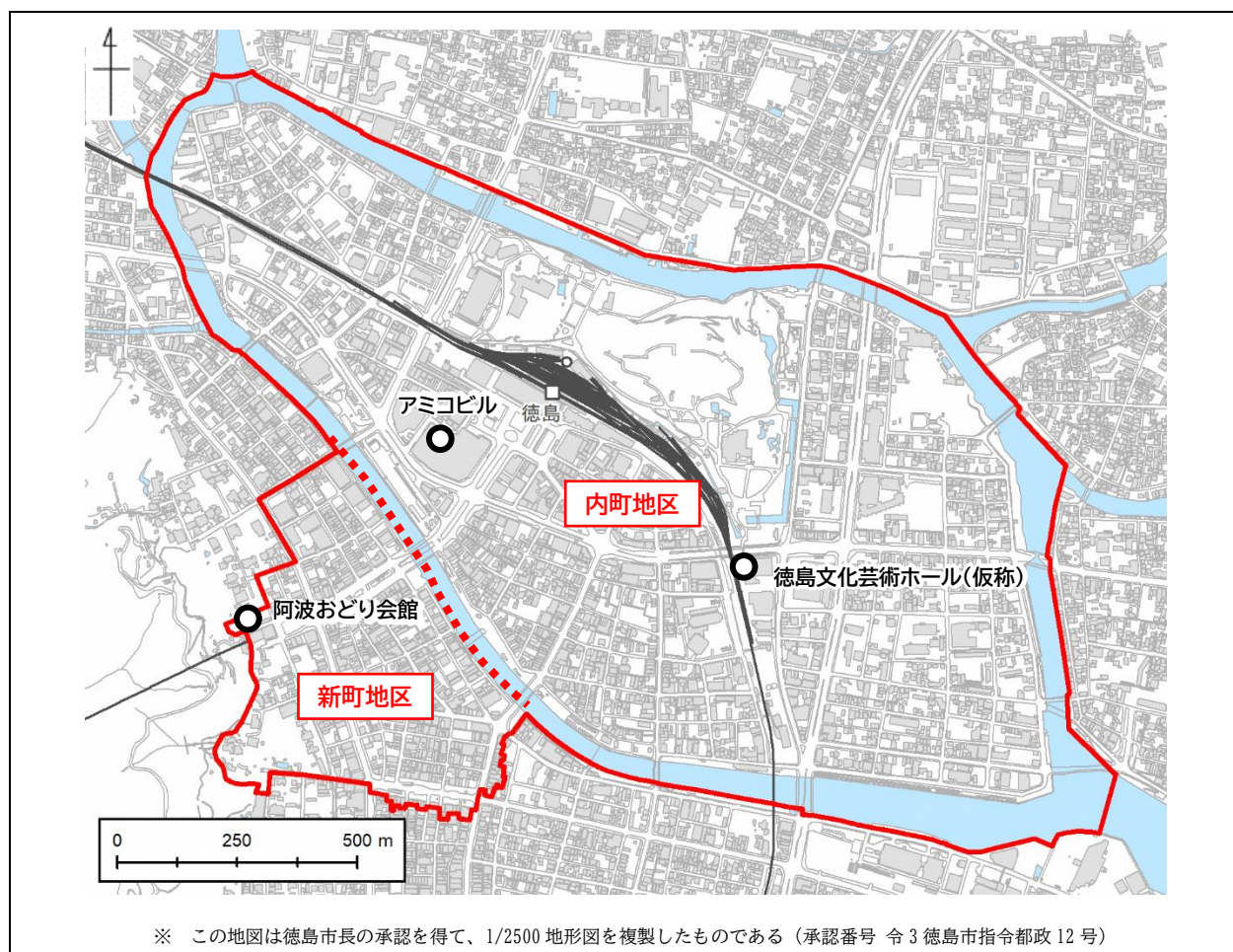
| 年 | (千人) |
|----|-----------------|
| R2 | 2,441 (基準年値) |
| R3 | 2,229 |
| R4 | 2,869 |
| R5 | 3,232 |
| R6 | |
| R7 | |
| R8 | 3,741 (目標値) |

※調査方法：各施設管理者からの報告数値（毎年度末締め）を集計する

※調査月：毎年4月（前年度の合計値）

※調査主体：徳島市

※調査対象：阿波おどり会館、アミコビル及び徳島文化芸術ホール（仮称）の来館者数



(単位：千人)

| | 令和3年度 (計画前年度) | 令和4年度 (1年目) | 令和5年度 (2年目) | 令和6年度 (3年目) | 令和7年度 (4年目) | 令和8年度 (5年目) |
|---------------|------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 阿波おどり会館 | 223 | 413 | 527 | | | |
| アミコビル | 2,006 | 2,456 | 2,705 | | | |
| 徳島文化芸術ホール(仮称) | — | — | — | | | |
| 合計 | 2,229 | 2,869 | 3,232 | | | |

〈分析内容〉

ランドマーク施設来館者数の増加に寄与する各事業については、概ね順調に進んでいる。

令和4年度から令和5年度にかけては、363千人増加の3,232千人(113%)となり、前年度に引き続き、増加傾向となっている。内訳を見ると、アミコビルは249千人増加の2,705千人(110%)となっており、アミコビルの改修工事が完了し、子どもから高齢者まで様々な人々が訪れる施設となったことにより、順調に来館者数が増加しているものと考えられる。

阿波おどり会館についても、114千人増加の527千人(128%)と、順調に増加しており、阿波おどり会館内にある阿波おどりミュージアムが令和6年2月にリニューアルオープンし、幅広い年代の方々や外国人観光客も楽しめる施設となったことにより、今後、来館者数は増加していくものと考えられる。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 阿波おどり会館の運営(指定管理者(徳島市))

| | |
|-----------------|---|
| 事業実施期間 | 平成11年度～【実施中】 |
| 事業概要 | まちなか観光の拠点となる阿波おどり会館の運営を行う。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 国の支援措置なし |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | <p>【目標値】年間利用者数：657千人 【最新値】年間利用者数：527千人</p> <ul style="list-style-type: none"> 当該事業は令和5年度より、阿波おどり公演(昼のおどり・夜のおどり)を再開した。 来館者数は前年度の総入場者数(413千人)を上回っており、コロナ前の来館者数に戻ってきている。また、阿波おどりミュージアムのリニューアル改修も予定通り年度内に完了し、デジタルサイネージや体験型コンテンツなどが整備され、インバウンドをはじめ、幅広い年代の方に阿波おどり会館の魅力をPRできる施設となっている。 |
| 事業の今後について | <ul style="list-style-type: none"> 指定管理者と連携し、今後も徳島市の観光資源である「阿波おどり」を年間を通して楽しむことができる魅力をPRすることで、来館者数の更なる増加を図りたい。 |

②. 徳島駅前再生事業（徳島市）

| | |
|-----------------|---|
| 事業実施期間 | 令和2年度～令和5年度【済】 |
| 事業概要 | JR 徳島駅前のアミコビルについて、テナント誘致に向けた施設改修などに対する補助金を支出する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業）（国土交通省）（令和4年度～令和5年度） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | <p>【目標値】年間来館者数：772千人増加 【最新値】年間来館者数：782千人増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該事業で支援しているアミコビル改修工事は、当初の計画では令和4年度に完了を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響による建築資材の納期遅延等により令和5年度の完了となった。 ・アミコビル来館者数は、最新値では2,705千人となっており、目標値を設定した際の見込み（事業目標値）772千人増加を達成することができた。このことは、改修工事が完了したことに伴い、新規テナント出店が進み、アミコビルの魅力向上が図られたことが要因と考えられる。 |
| 事業の今後について | ・今後もアミコビルの管理運営を行う徳島都市開発株式会社と連携・協力し、更なる来館者数の増加に努める。 |

③. 広域観光案内ステーションの運営（徳島市）

| | |
|-----------------|--|
| 事業実施期間 | 平成24年度～【実施中】 |
| 事業概要 | アミコビルにおいて、着地型観光の促進を図る拠点となる「広域観光案内ステーション」を運営する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 国の支援措置なし |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | <p>【目標値】年間来館者数：30千人増加 【最新値】年間来館者数：6千人減少</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該事業は令和4年度より、アミコビル地下1階からアミコビル東側外向き1階に移転し、まちのインフォメーションとしての機能を強化している。 ・目標値設定時は、パンフレットを持ち帰っただけの方も来館者数に含めて集計していたが、移転後は、来館者の集計方法を「観光案内・宿泊案内」を行った方のみに変更したため、事業目標値の45千人に対し、最新値は9.0千人となっているが、「観光案内・宿泊案内」を行った来館者数で比較すると、移転前（R3）の4.4千人を大きく上回っている（205%）。また、前年度の実績7.5千人と比較しても1.5千人増となっており、移転によりインフォメーションとしての機能が強化され、来館者数が順調に増加しているものと考えられる。 |

| | |
|-----------|---|
| 事業の今後について | <ul style="list-style-type: none"> ・アミコビル東側外向き 1 階に移転して1年以上経過し、観光案内の場所がわかりやすくなったことで外国人旅行者にも観光案内所の認知度が高くなっている。 ・四国遍路の人気も相まって、観光案内ステーションを訪れる外国人旅行者は、これから増加していくことが見込まれることから、インバウンドに対応した観光案内の工夫をし、広報・周知していくことで、アミコビル来館者数の更なる増加を目指す。 |
|-----------|---|

④. 徳島文化芸術ホール（仮称）整備事業（徳島県、徳島市）

| | |
|-----------------|--|
| 事業実施期間 | 令和 2 年度～令和 8 年度【実施中】 |
| 事業概要 | 中心市街地のランドマークとなる新たな文化ホールを県市協調により整備するとともに、既存建築物・地下埋設物除却等の土地整備を実施する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業）（国土交通省）（令和 4 年度～令和 8 年度） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | <p>【目標値】年間来館者数：350 千人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該事業は、県市協調新ホール整備に関する基本協定に基づき進めているもので、令和 5 年度については、県は実施設計業務を実施し、市は中央公民館及び社会福祉センターの解体、周辺のインフラ整備である電線等地中化を実施した。通信回線の移設については、関係者等との調整及び協議に時間を要したため、令和 6 年度へ繰越ししている。 |
| 事業の今後について | <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、通信回線移設作業を続ける。 ・なお、当該事業については、県が新ホール整備計画の見直しを進めていることから、県が現在実施している調査等の結果を踏まえ、今後の方針を検討する。 |

●目標達成の見通し及び今後の対策

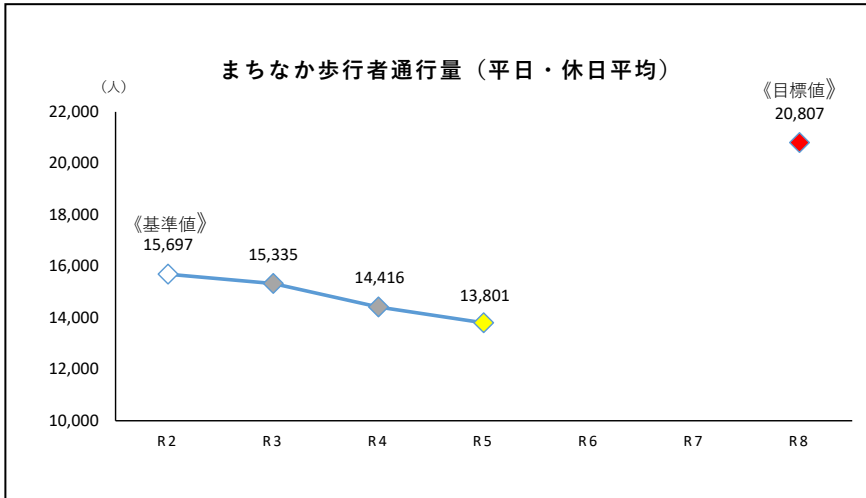
ランドマーク施設の来館者数は順調に増加傾向となっている。アミコビルの改修工事が完了し、多様な人々が訪れる施設として生まれ変わり、また、阿波おどり会館内にある阿波おどりミュージアムのリニューアル改修工事も完了し、今後、インバウンドも含めた来館者の増加が見込まれる。

今後は、県が現在、見直しを進めている新ホールの調査結果等を踏まえ、方針の検討を行うとともに、アミコビルや阿波おどり会館の更なる魅力向上に向けた取組を進めていくことで、目標達成を目指していきたい。

(2) 「まちなか歩行者通行量（平日・休日平均）」

※目標設定の考え方認定基本計画 P. 74～P. 79 参照

●調査結果と分析



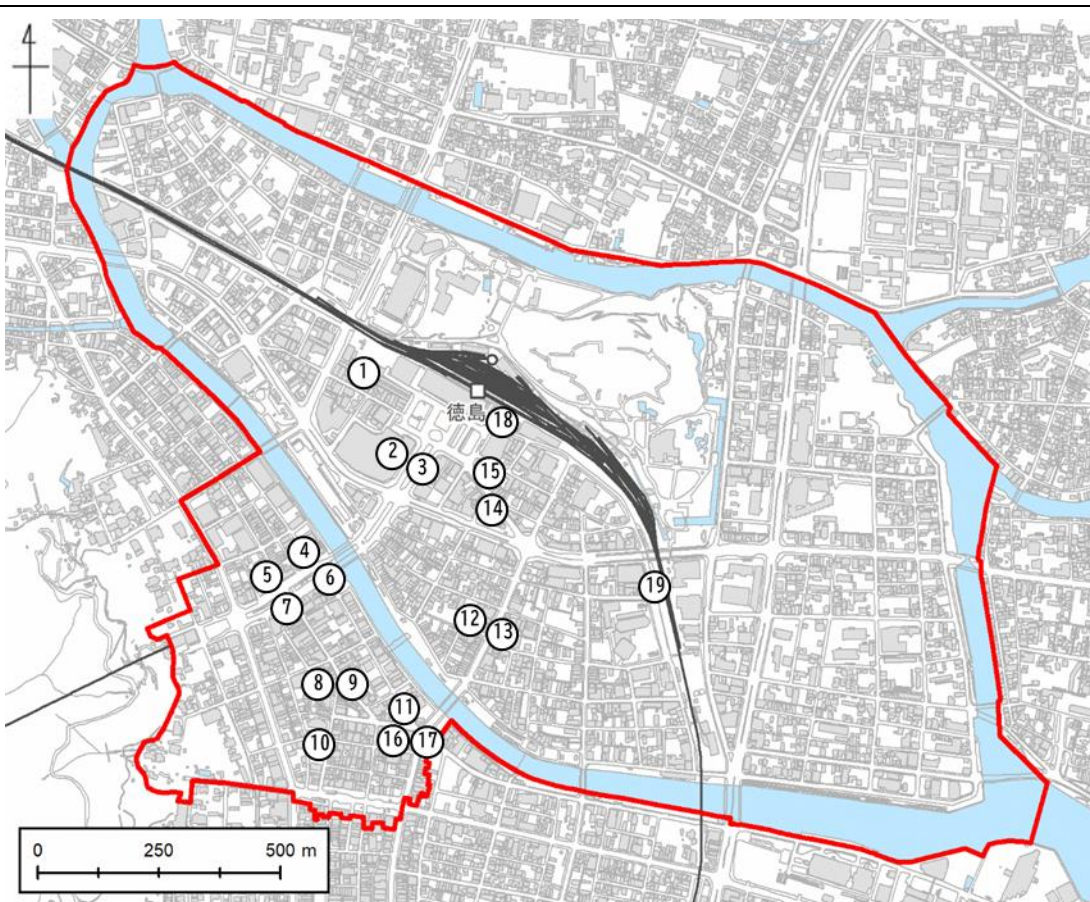
| 年 | (人) |
|----|------------------|
| R2 | 15,697 (基準年値) |
| R3 | 15,335 |
| R4 | 14,416 |
| R5 | 13,801 |
| R6 | |
| R7 | |
| R8 | 20,807 (目標値) |

※調査方法：スマートフォンのGPS機能を活用したビッグデータ（4月1日から3月31日までの測定結果により算出されるまちなか歩行者通行量）を計測する

※調査月：毎年4月（前年度の平均値）

※調査主体：徳島市

※調査対象：調査地点（19地点）の歩行者通行量の平日・休日平均の合算



※ この地図は徳島市長の承認を得て、1/2500 地形図を複製したものである（承認番号 令3 徳島市指令都政 12号）

(単位：人)

| | 令和3年度 (計画前年度) | 令和4年度 (1年目) | 令和5年度 (2年目) | 令和6年度 (3年目) | 令和7年度 (4年目) | 令和8年度 (5年目) |
|-------------|------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 1 ポッポ街 | 848 | 913 | 692 | | | |
| 2 元町西側 | 713 | 694 | 623 | | | |
| 3 元町東側 | 821 | 807 | 742 | | | |
| 4 新町橋西側 | 541 | 555 | 571 | | | |
| 5 西新町商店街 | 528 | 520 | 513 | | | |
| 6 新町橋南東側 | 567 | 582 | 590 | | | |
| 7 東新町1丁目 | 725 | 663 | 670 | | | |
| 8 東新町2丁目西側 | 488 | 481 | 469 | | | |
| 9 東新町2丁目東側 | 515 | 471 | 471 | | | |
| 10 籠屋町アーケード | 1,022 | 932 | 954 | | | |
| 11 銀座商店街 | 726 | 674 | 651 | | | |
| 12 両国本町西側 | 1,269 | 1,135 | 1,076 | | | |
| 13 両国本町東側 | 1,352 | 1,217 | 1,149 | | | |
| 14 一番町南側 | 1,186 | 1,049 | 988 | | | |
| 15 一番町北側 | 1,210 | 1,095 | 1,090 | | | |
| 16 両国橋商店街西側 | 675 | 663 | 653 | | | |
| 17 両国橋商店街東側 | 718 | 657 | 652 | | | |
| 18 徳島駅東 | 946 | 858 | 818 | | | |
| 19 新ホール西 | 485 | 450 | 429 | | | |
| 合計 | 15,335 | 14,416 | 13,801 | | | |

〈分析内容〉

まちなか歩行者通行量（平日・休日平均）は、令和4年度の14,416人に対し、令和5年度の最新値は13,801人（▲615人）となり、前年度に引き続き減少傾向となっているものの、同目標指標の増加に向けた各事業の取組は概ね予定どおり進められており、減少率は僅かに改善（R4：▲6%、R5：▲4%）している。

調査地点ごとに見てみると、新町橋西側・南東側、東新町1丁目、籠屋町アーケードの4地点が増加（前年度は2地点）しており、西新町商店街、一番町北側、両国橋商店街西側・東側についても、概ね現状値を保つことができていることなど、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことにより、中心市街地で実施している各種イベントや飲食店などにも人の流れが徐々に戻りつつあると感じられる要素もある。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. ひょうたん島周遊船運航事業（徳島市）

| | |
|-----------------|--|
| 事業実施期間 | 平成8年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 中心市街地を流れる新町川と助任川に囲まれた「ひょうたん島」の周囲約6kmを巡る周遊船の定期運航を行うとともに、夏季に屋形船でのイベントを実施する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 中心市街地活性化ソフト事業（総務省）（令和4年4月～令和9年3月） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | <p>【目標値】51人増加 【最新値】17人減少</p> <ul style="list-style-type: none"> 令和5年度の乗船者数は、45,710人であり、前年度の47,374人を下回っている（▲1,664人）が、このことについては、天候の影響が大きいと考えている。 令和4年度は雨天の割合が17.8%であったのに対し、令和5年度は23.1%となっており、特に、乗船者数が多い阿波おどり開催期間中（8/12～8/15）のうち、令和5年度は2日間が台風の影響で悪天候となり、同期間の乗船者数のみを比較しても、令和4年度の6,507人に対し、令和5年度は4,674人（▲1,833人）となっている。 乗船者数は前年度を下回ったが、観光客の回復は順調であり、特に外国人観光客の乗船者数は1,311人と、前年度の323人から大幅に増加（406%）している。 |
| 事業の今後について | <ul style="list-style-type: none"> 今後も、本市の特徴的な資源である水辺空間を生かした観光コンテンツの一つとして、水都とくしまの魅力を観光客に提供できるよう事業を進め、利用者数を増やすことにより、水辺空間を回遊する歩行者通行量の増加を図る。 |

②. 中心市街地出店支援事業（中心市街地の空き店舗への出店者（徳島市））

| | |
|-----------------|--|
| 事業実施期間 | 令和2年度～【実施中】 |
| 事業概要 | そごう徳島店の閉店に伴う駅前のにぎわい喪失を防ぐため、中心市街地の空き店舗に出店する場合に必要な改装費等に係る補助金を支出する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 都市構造再編集中支援事業（国土交通省）（令和4年度～令和8年度） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | <p>【目標値】500人増加（計画期間の累計） 【最新値】171人増加（計画期間の累計）</p> <ul style="list-style-type: none"> 当該事業の利用による新規出店について、令和5年度は5件であり、概ね想定通りの利用があったと考えているが、前年度の7件を下回っており、目標値は171人増加（前年度：100人増加）となっている。 |

| | |
|-----------|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> ・今年度より、対象地区や補助限度額を拡大して実施したものの、前年度と同様に制度を知らずに出店するケースが散見されることから、引き続き制度周知方法の改善を行っていく必要がある。 |
| 事業の今後について | <ul style="list-style-type: none"> ・対象地区内に出店を検討している事業者への周知方法について、引き続き改善を行う。また、今年度は、対象地区や補助限度額を拡大したが、今後も他事業との整合性を図りながら、対象業種の拡大等についても検討を行い、新規出店件数の増加及び対象地区周辺の魅力向上を図ることにより、商店街等を訪れる歩行者通行量の増加を目指す。 |

③. フィールドアトラクション発掘・発信事業（徳島都市開発株式会社）

| | |
|-----------------|---|
| 事業実施期間 | 令和4年度～【未】 |
| 事業概要 | 中心市街地をテーマパークのように「遊びに行く場所」として活性化するため、地域資源の磨き上げを通じた着地型観光商品の造成やまち歩きイベントの実施に取り組む。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 国の支援措置なし |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | <p>【目標値】110人増加</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該事業は、実施主体である徳島都市開発株式会社が令和4年度中に事業計画を取りまとめ、開始する予定であったが、その実施手法について、検討を行っているところである。 ・令和5年度においては、本市のアニメ文化を生かしたイベント「ComCos」を市内の高校生が主体となって実施（令和5年6月、11月）するに当たり、アミコビルを会場として提供するなどの協力を行った。 ・また、中心市街地の住民団体が企画するキッチンカーイベント「キッチンカースクエア」（令和5年11月以降、毎月開催）や、保護犬・保護猫譲渡会とグルメなどを販売するマーケットを組み合わせたイベント「amico de AMI-GO」（令和5年10月以降、毎月開催）にもアミコビルを会場として提供する形で協力をしており、中心市街地の活性化に向けて、多様な団体との連携を深めている。 |
| 事業の今後について | <ul style="list-style-type: none"> ・事業の実施に向けて、個々のイベントの面的なつながりも考慮しながら、中心市街地全体の回遊性向上を図れるよう実施手法やスケジュールを検討する。 |

④. 徳島文化芸術ホール（仮称）整備事業（徳島県、徳島市）

| | |
|--------|---|
| 事業実施期間 | 令和2年度～令和8年度【実施中】 |
| 事業概要 | 中心市街地のランドマークとなる新たな文化ホールを県市協調により整備するとともに、既存建築物・地下埋設物除却等の土地整備を実施する。 |

| | |
|-----------------|---|
| 国の支援措置名及び支援期間 | 社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業）（国土交通省）（令和4年度～令和8年度） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 【目標値】1,373人増加 ・当該事業は、県市協調新ホール整備に関する基本協定に基づき進めているもので、令和5年度については、県は実施設計業務を実施し、市は中央公民館及び社会福祉センターの解体、周辺のインフラ整備である電線等地中化を実施した。通信回線の移設については、関係者等との調整及び協議に時間を要したため、令和6年度へ繰越ししている。 |
| 事業の今後について | ・引き続き、通信回線移設作業を続ける。 ・なお、当該事業については、県が新ホール整備計画の見直しを進めていることから、県が現在実施している調査等の結果を踏まえ、今後の方針を検討する。 |

⑤. 徳島駅前再生事業（徳島市）

| | |
|-----------------|---|
| 事業実施期間 | 令和2年度～令和5年度【済】 |
| 事業概要 | JR 徳島駅前のアミコビルについて、テナント誘致に向けた施設改修などに対する補助金を支出する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 社会資本整備総合交付金（暮らし・にぎわい再生事業）（国土交通省）（令和4年度～令和5年度） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | 【目標値】2,115人増加 【最新値】2,142人増加 ・当事業で支援しているアミコビル改修工事は、当初の計画では令和4年度に完了を予定していたが、新型コロナウイルス感染症の影響による建築資材の納期遅延等により令和5年度の完了となった。 ・アミコビル来館者数は、最新値では2,705千人となっており、目標値を設定した際の見込み（事業目標値）2,115人増加を達成することができた。このことは、改修工事が完了したことに伴い、新規テナント出店が進み、アミコビルの魅力向上が図られたことが要因と考えられる。 |
| 事業の今後について | ・今後もアミコビルの管理運営を行う徳島都市開発株式会社と連携・協力し、まちなかを回遊する歩行者通行量の増加を目指す。 |

⑥. 広域観光案内ステーションの運営（徳島市）

| | |
|---------------|--|
| 事業実施期間 | 平成24年度～【実施中】 |
| 事業概要 | アミコビルにおいて、着地型観光の促進を図る拠点となる「広域観光案内ステーション」を運営する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 国の支援措置なし |
| 事業目標値・最新値 | 【目標値】164人増加 |

| | |
|------------------|---|
| <p>値及び進捗状況</p> | <p>【最新値】 33人減少</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該事業は令和4年度より、アミコビル地下1階からアミコビル東側外向き1階に移転し、まちのインフォメーションとしての機能を強化している。 ・目標値設定時は、パンフレットを持ち帰っただけの方も来館者数に含めて集計していたが、移転後は、来館者の集計方法を「観光案内・宿泊案内」を行った方のみに変更したため、事業目標値の45千人に対し、最新値は9.0千人となっているが、「観光案内・宿泊案内」を行った来館者数で比較すると、移転前（令和3年度）の4.4千人を大きく上回っている（205%）。また、前年度の実績7.5千人と比較しても1.5千人増となっており、移転によりインフォメーションとしての機能が強化され、来館者数が順調に増加しているものと考えられる。 |
| <p>事業の今後について</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・アミコビル東側外向き1階に移転して1年以上経過し、観光案内の場所がわかりやすくなったことで外国人旅行者にも観光案内所の認知度が高くなっている。 ・四国遍路の人気も相まって、観光案内ステーションを訪れる外国人旅行者は、これから増加していくことが見込まれることから、インバウンドに対応した観光案内の工夫をし、広報・周知していくことで、アミコビル来館者数の更なる増加を目指す。 |

●目標達成の見通し及び今後の対策

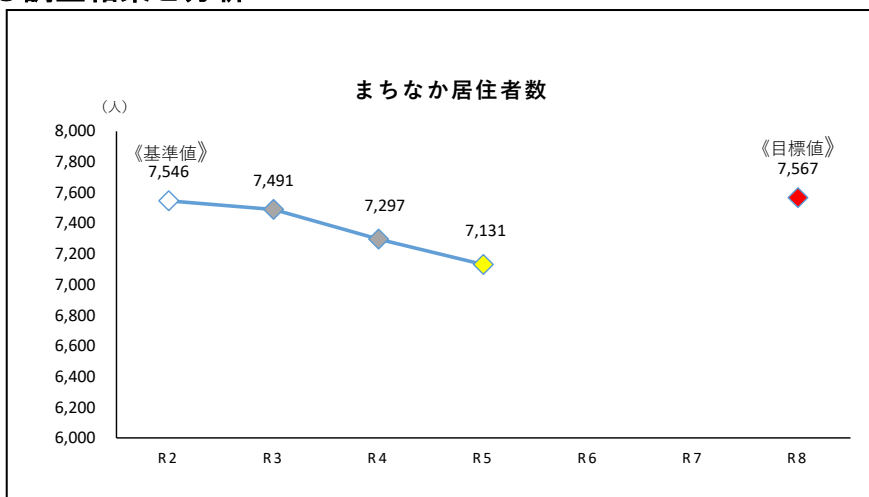
一部、実施に至らなかった事業があるものの、その他の事業は概ね順調に進捗しており、まちなか歩行者通行量（平日・休日平均）については、未だ減少傾向となっているが、「賑わい」が感じられる場面は着実に増えてきており、継続して事業を実施していくことで、目標の達成は可能であると思われる。

特に、円安効果もあってか、「ひょうたん島周遊船」のように、外国人観光客が明らかに増加傾向にあり、日本政府観光局の発表では、訪日外客数（令和6年3月推計値）は、令和元年同月比で11.6%増の3,082千人と、単月として過去最高を更新し、コロナ前を上回る勢いで回復している状況となっている。

本市においても、このような人の流れを逃さぬよう、今後インバウンド対応という視点も重視しながら、ひょうたん島川の駅ネットワーク構想の推進など、本市ならではの魅力を生かした取組のより一層の充実を図るとともに、各種イベントやランドマーク施設を訪れた人がまちなかに繰り出し、歩いて楽しめる場所となるよう、まちの回遊性を高める取組を進めることで、目標達成を目指していきたい。

(3)「まちなか居住者数」※目標設定の考え方認定基本計画 P. 80～P. 81 参照

●調査結果と分析



| 年 | (人) |
|----|-----------------|
| R2 | 7,546 (基準年値) |
| R3 | 7,491 |
| R4 | 7,297 |
| R5 | 7,131 |
| R6 | |
| R7 | |
| R8 | 7,567 (目標値) |

※調査方法：毎年10月1日時点の徳島市住民基本台帳人口を集計する

※調査月：12月

※調査主体：徳島市

※調査対象：中心市街地（内町地区・新町地区）の徳島市住民基本台帳人口

(単位：人)

| | 令和3年度 (計画前年度) | 令和4年度 (1年目) | 令和5年度 (2年目) | 令和6年度 (3年目) | 令和7年度 (4年目) | 令和8年度 (5年目) |
|----------|------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 内町地区 | 5,571 | 5,448 | 5,331 | | | |
| うち14歳以下 | 606 | 590 | 549 | | | |
| うち15～64歳 | 3,081 | 2,995 | 2,938 | | | |
| うち65歳以上 | 1,884 | 1,863 | 1,844 | | | |
| 新町地区 | 1,920 | 1,849 | 1,800 | | | |
| うち14歳以下 | 140 | 130 | 116 | | | |
| うち15～64歳 | 1,005 | 977 | 956 | | | |
| うち65歳以上 | 775 | 742 | 728 | | | |
| 合計 | 7,491 | 7,297 | 7,131 | | | |

〈分析内容〉

まちなか居住者数は、令和4年度から令和5年度にかけて、▲166人となっており、減少率は僅かに改善が見られる(R4:▲2.7%、R5:▲2.3%)ものの、未だ減少傾向にある。

地区別年齢区分別に見ると、内町地区の生産年齢人口(15～64歳)の減少数が▲57人と最も多く、全体(▲166人)の34%となっており、次いで、14歳未満の子どもの減少数が▲41人と多なっている。前年度と比較すると、生産年齢人口の減少率は改善が見られる(R4:▲2.9%、R5:▲2.0%)が、子どもの減少率は大幅に悪化(R4:▲2.7%、R5:▲7.5%)している。新町地区では、子どもの減少率がより大きく(R4:▲7.7%、R5:▲12.1%)となっており、新町西地区市街地再開発事業の着実な実施のほか、若い世代の移住や転入に繋がるような、取組みの実施が急務となっている。

●目標達成に寄与する主要事業の進捗状況及び事業効果

①. 移住促進事業（徳島市）

| | |
|-----------------|--|
| 事業実施期間 | 令和元年度～【実施中】 |
| 事業概要 | 移住交流支援センターの運営や移住希望者に対するPR等を実施するとともに、ワーキングホリデーや本市の地域資源を生かした移住促進策を展開する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 地方創生推進交付金（内閣府）（令和4年度～令和6年度） |
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | <p>【目標値】本事業による移住者数：19人（計画期間の累計）</p> <p>【最新値】本事業による移住者数：96人（計画期間の累計）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該事業については、移住促進サイトのリニューアル・移住交流支援センター公式LINEの開設などでの積極的な情報発信、移住交流支援センターでの対面や電話等に加えて公式LINE上でも移住相談を行っており、相談件数も順調に推移しており、令和5年度の移住者数は54人となった。 ・実際に徳島市を訪れて魅力や暮らしを体験して移住を具体的に検討するきっかけとしてもらう「ふるさとワーキングホリデー（定員20名）」や「移住体験ツアー（定員10名）」は、募集定員を上回る参加希望者があった。また、移住された方を対象に「移住者交流会」を開催し、移住者のコミュニティ形成にも力を注いでいる。 ・令和5年度からは、18歳未満の子どもと共に移住する場合の加算を子ども1人当たり30万円から100万円に増額し、若い世代への働きかけを強化している。こうした結果が目標値を大幅に上回る成果につながっていると考えられる。 |
| 事業の今後について | <ul style="list-style-type: none"> ・「ふるさとワーキングホリデー」や「移住体験ツアー」は参加者の満足度も高いが、より実際の移住につながるようにテーマやターゲットを設定するなど、内容を磨き上げていく。 ・移住者や関係人口が手軽に閲覧や書き込みができるアプリを開発し、普段からの交流を通じて、移住や定住につないでいく。 ・移住促進事業は現在順調に進んでいるが、コロナによる地方回帰の流れがどうなるかも不透明なため、社会情勢を注視しながら積極的な移住促進施策を展開し、さらなる中心市街地への移住者の増加を目指す。 |

②. 新町西地区市街地再開発事業（新町西地区市街地再開発組合（徳島市））

| | |
|---------------|---|
| 事業実施期間 | 令和3年度～令和8年度【実施中】 |
| 事業概要 | 新町西地区において取り組む、集合住宅・宿泊施設・商業施設・川の駅等を整備する新たな再開発事業に対して補助金を支出する。 |
| 国の支援措置名及び支援期間 | 社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業等）（国土交通省）（令和4年度～令和7年度） |

| | |
|-----------------|---|
| 事業目標値・最新値及び進捗状況 | <p>【目標値】390人</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当該事業は、新町西地区市街地再開発組合が施行するものであり、同組合において計画作成などの取組を進めており、本市においては、本事業が円滑に進むよう、補助金交付などの支援を行っているところである。 ・令和8年度の事業完了に向けて、全体スケジュールとしては、概ね当初の計画どおりに進捗しており、令和5年度については、事業計画の変更認可を経て、権利変換計画の認可を行った。 |
| 事業の今後について | <ul style="list-style-type: none"> ・今後、当該地区の解体除却工事を経て、建築工事へと進んでいく予定である。 |

●目標達成の見通し及び今後の対策

各事業は概ね順調に進捗しており、移住促進事業については、目標値を大きく上回る成果（R4～R5 累計：96人）が出ているが、「まちなか居住者数」については、未だ減少傾向にあり、特に14歳以下の子どもが大きく減少している。

令和5年度からは、中心市街地の中古住宅を購入し、居住目的でリフォーム工事する際の補助制度の新設や、移住促進事業において、子どもと共に移住してくる世帯に対する加算の増額を行い、20歳未満の移住者数も増加傾向（R4：3人、R5：8人）となっているが、減少数に追いついていない状況である。

今後、目標の達成に向けて、新町西地区市街地再開発事業を着実に進めていくことはもとより、引き続き、移住促進事業など、早期に効果が現れる事業を継続していくとともに、若い世代に働きかける取組の追加・拡充を検討していくことが重要であると考えられる。